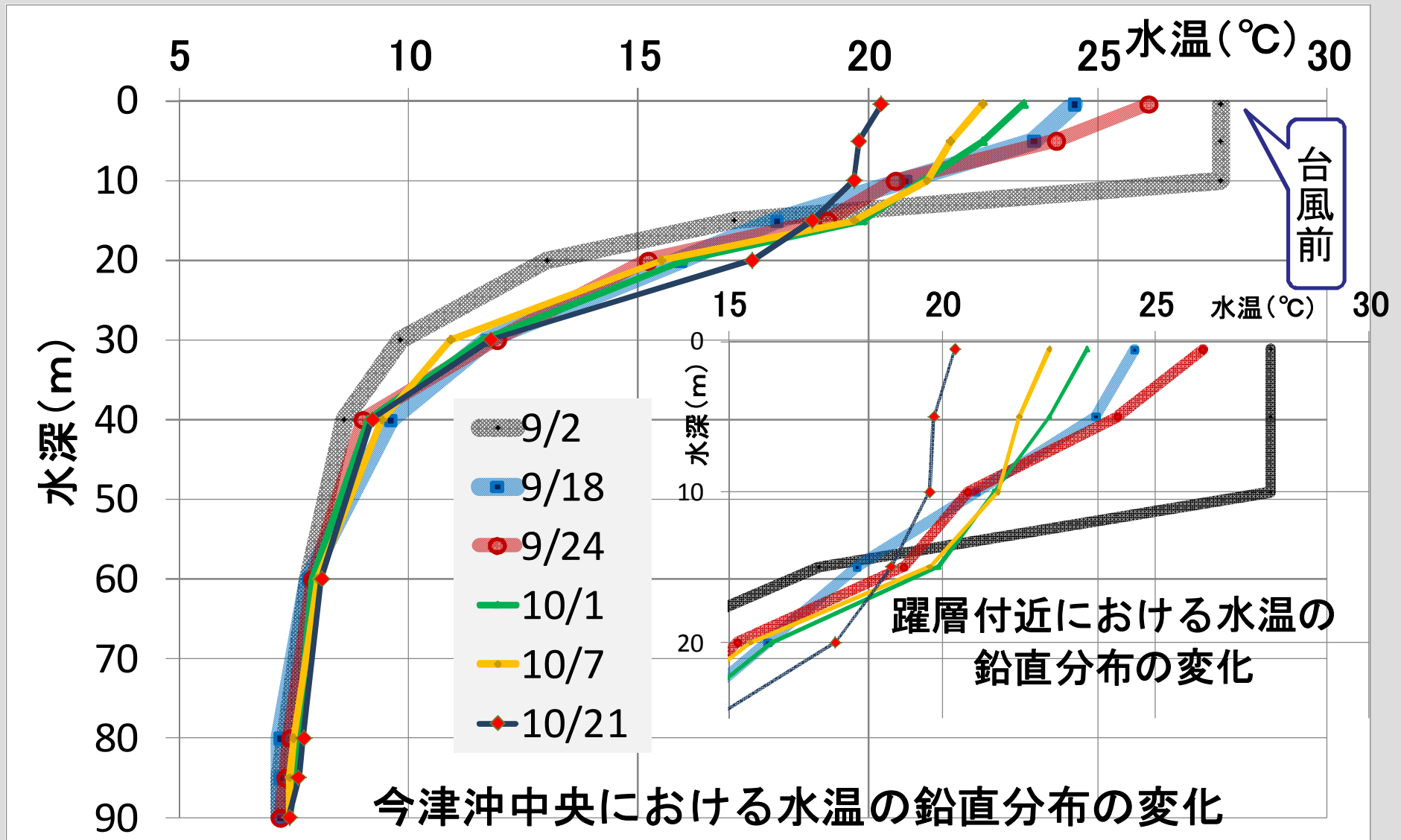


琵琶湖水質の変動の特徴と主な要因

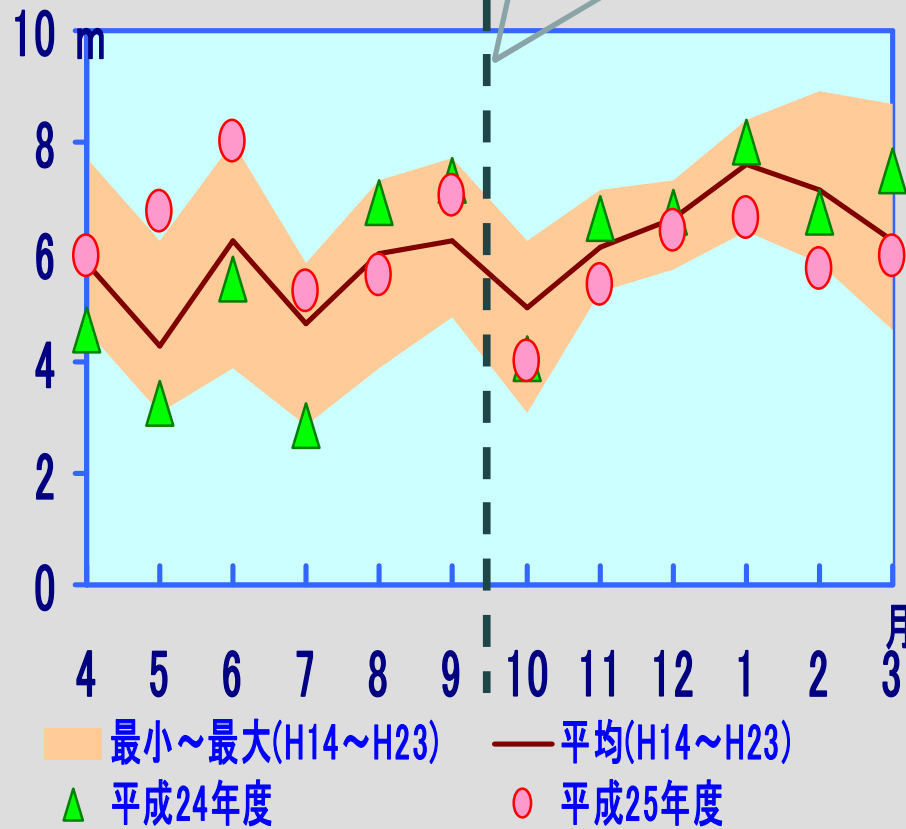
4. 台風18号による豪雨と北湖深層部の溶存酸素の状況

平成25年 台風18号の影響 ～水温躍層の弱まり～



平成25年台風18号の影響～透明度の低下～

台風18号通過(H25. 9. 16)



北湖透明度の経月変化(平成25年度)

大津市柳が崎の状況



↑ 通常(H26. 6. 16) 水位 : 0 cm



↑ 台風18号通過後(H25. 9. 17) 水位 : 70 cm

平成25年台風18号の影響 ～SSの上昇～

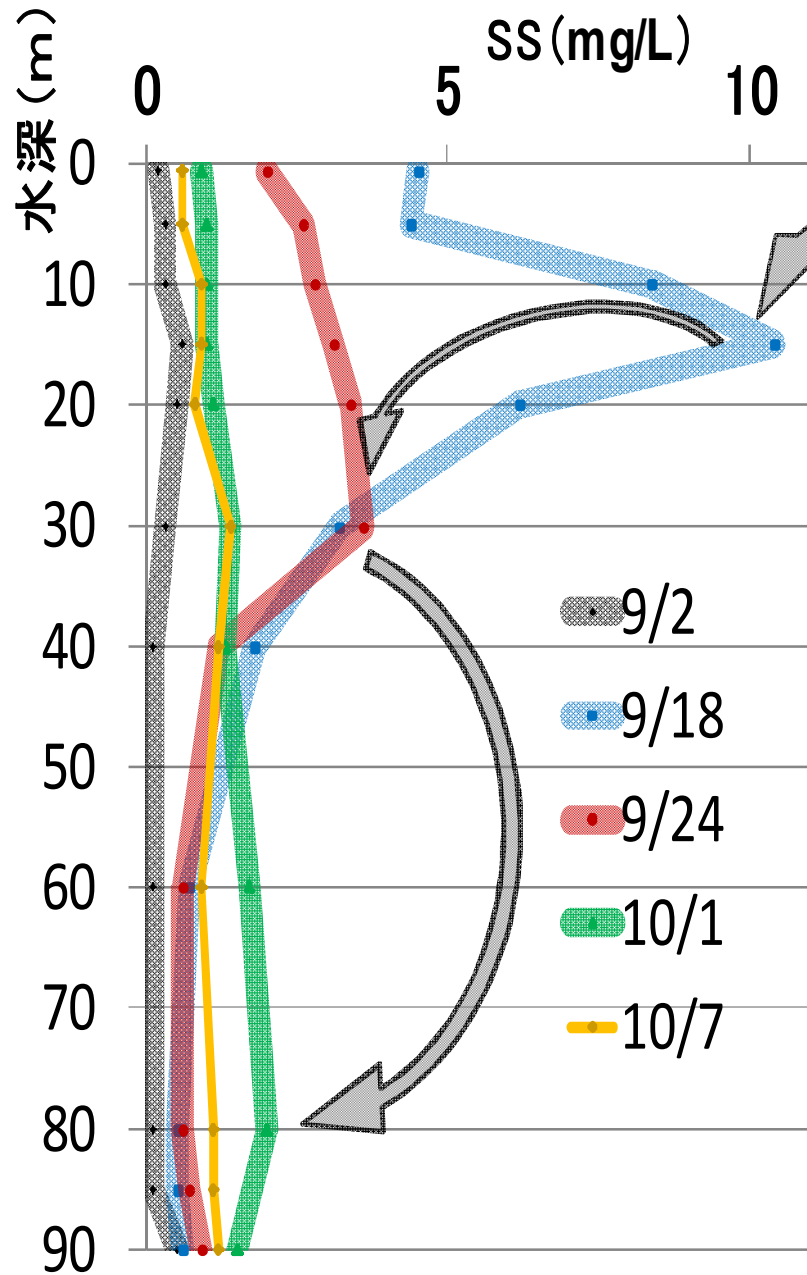
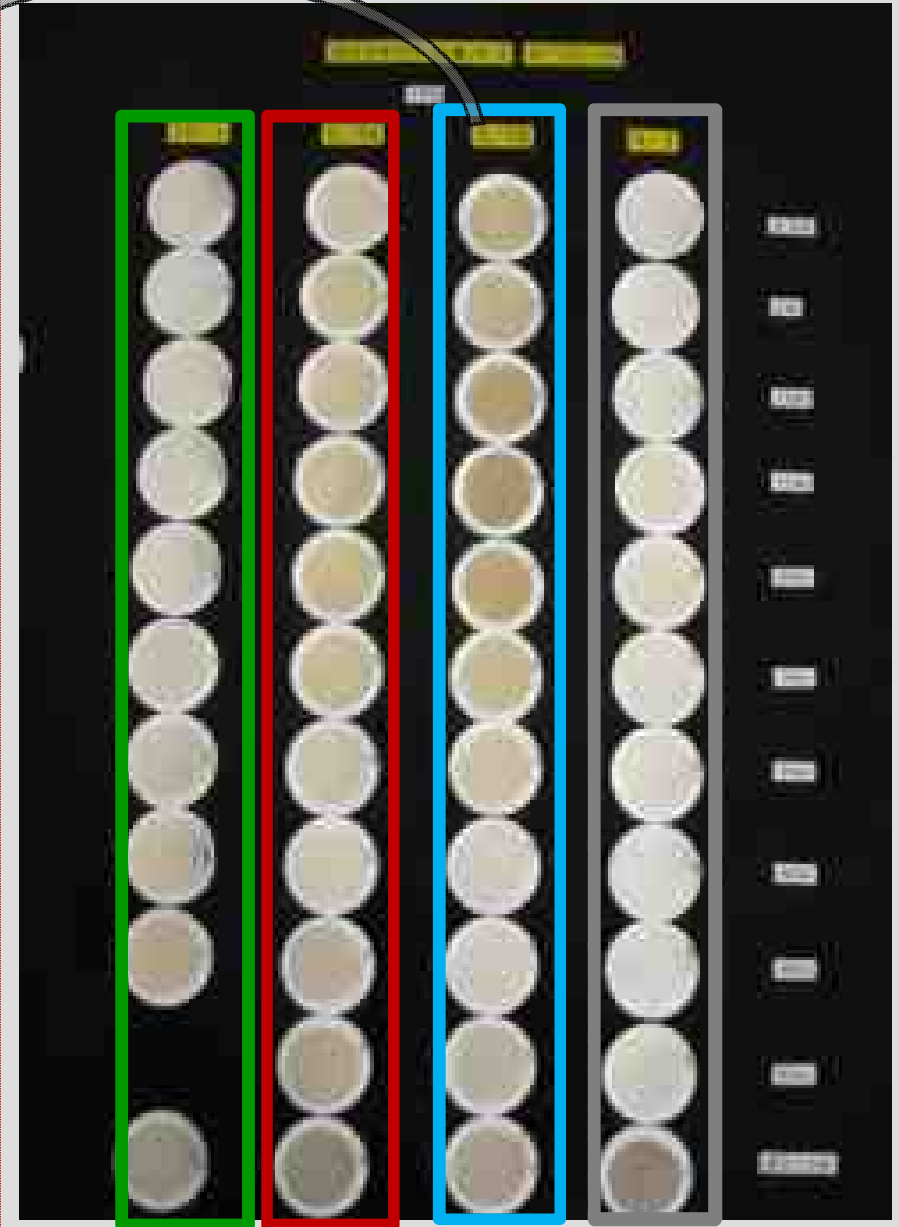


図 17BにおけるSSの鉛直分布の変化



【濁り成分（SS分）の状況】

9月：台風18号豪雨による大量のSS分流入



表層のSS：12月には北湖平均値で、過年度最小値まで低下。



琵琶湖水質の年平均値に大きな影響は現れず



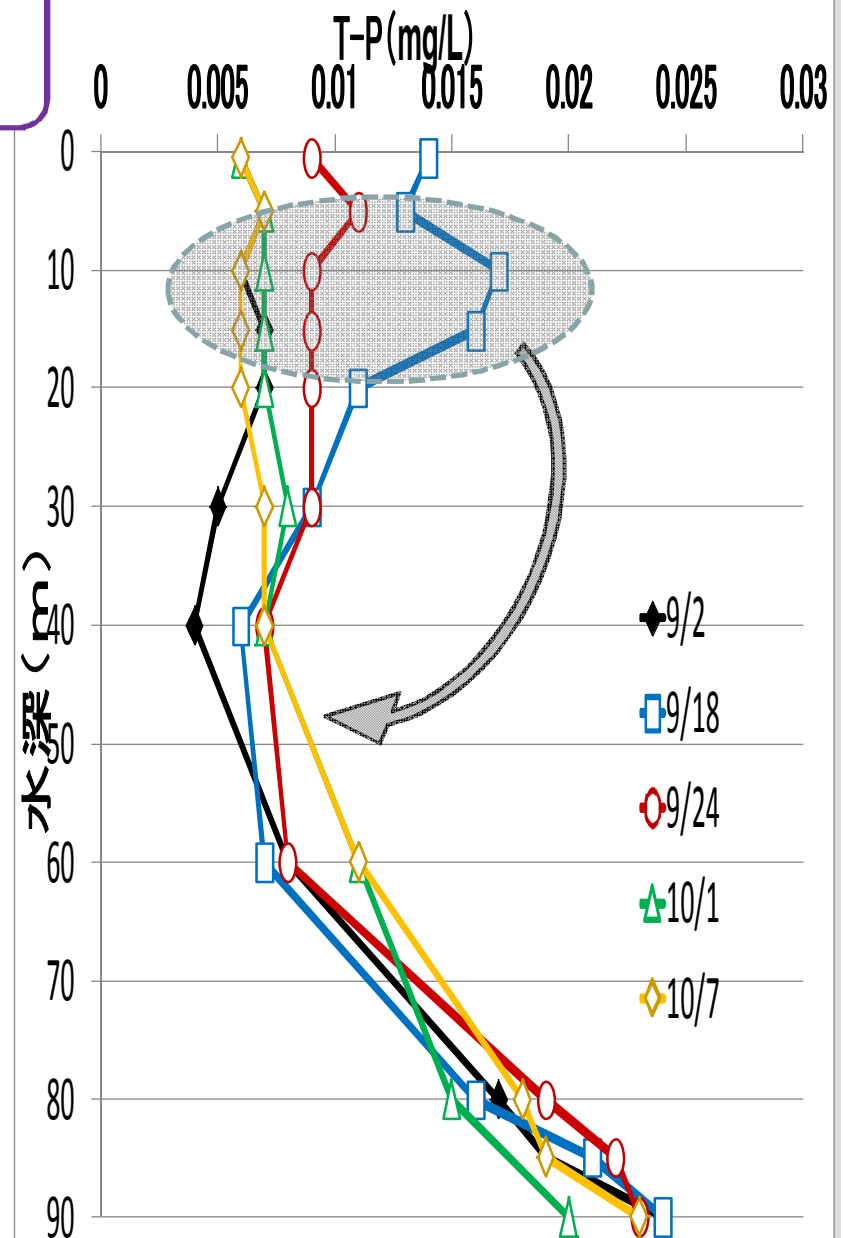
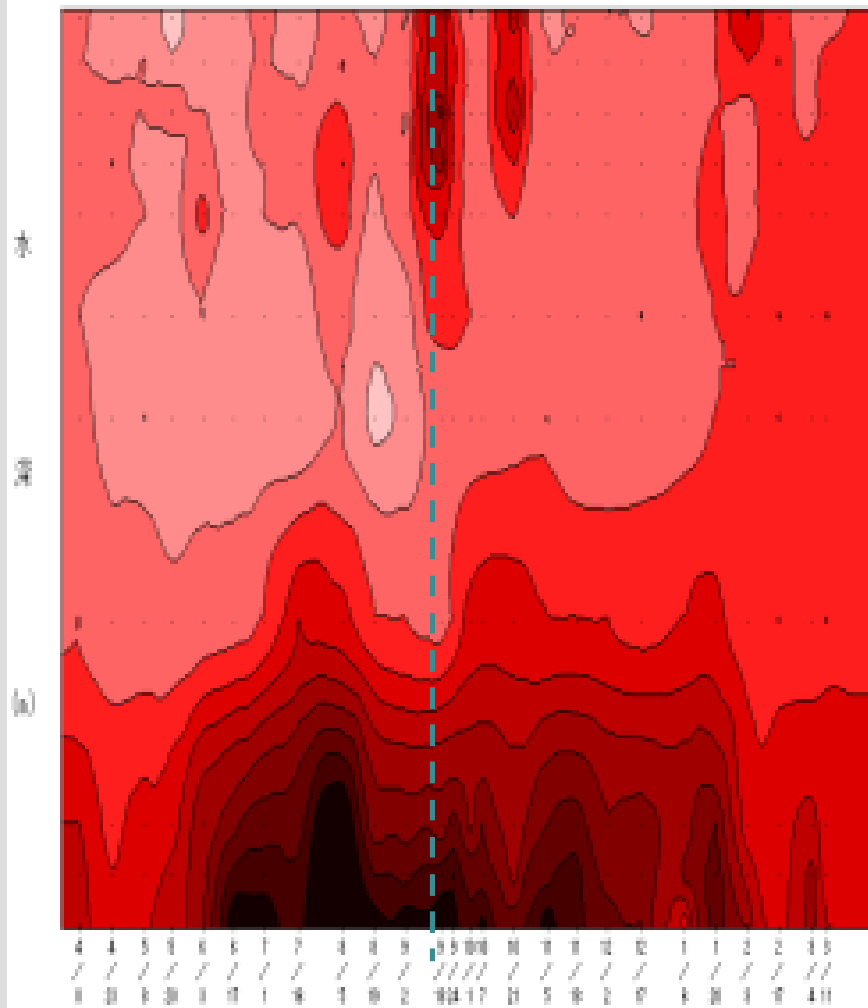
琵琶湖湖底に流入土砂が堆積



今津沖中央(水深90m)の底泥

今津沖中央における全リンの鉛直分布の時間変化

台風18号通過
(H25. 9. 16)

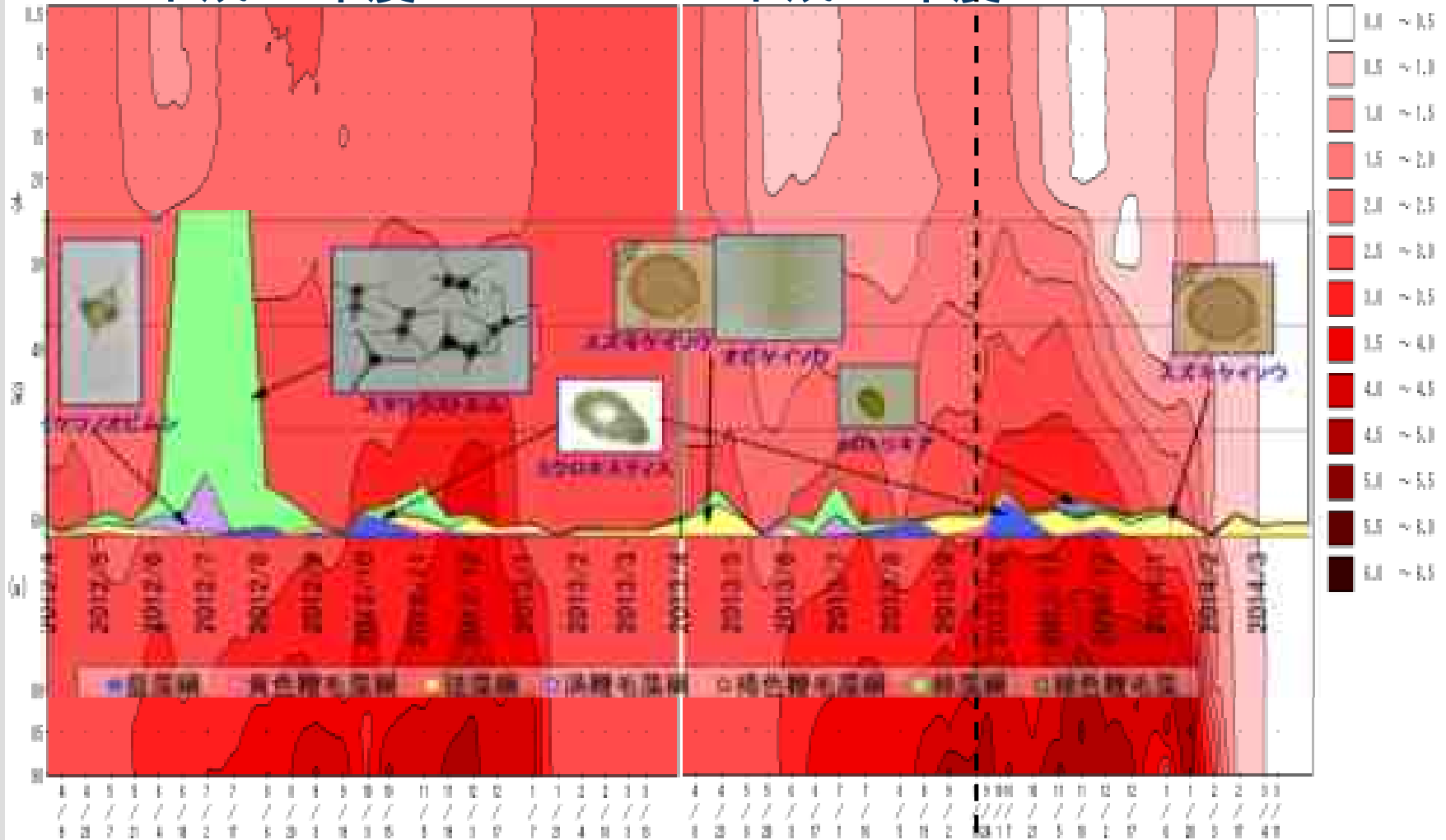


平成25年度の溶存珪酸の低下 (平成24年度との比較)

台風18号通過
(H25. 9. 16)

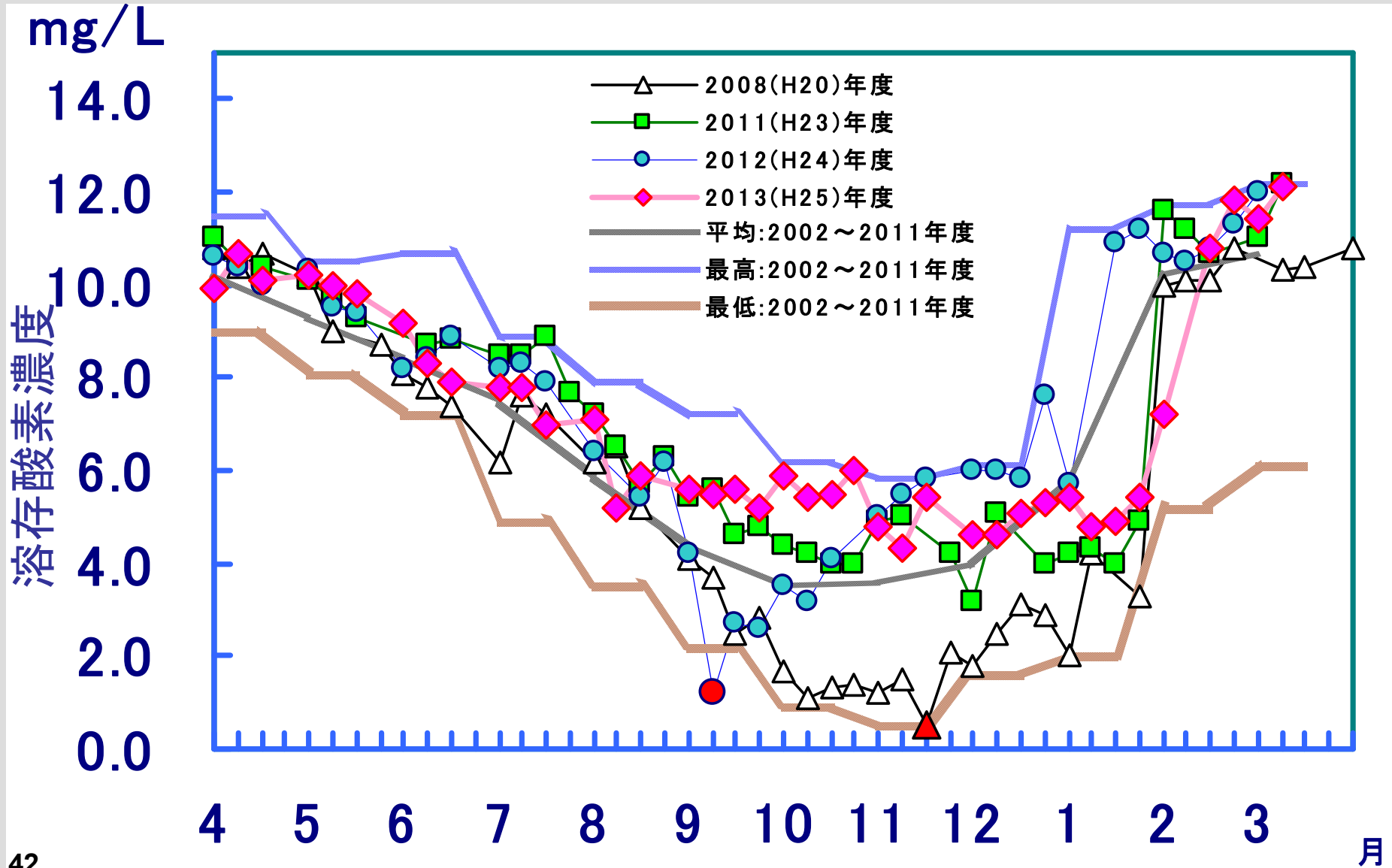
平成24年度

平成25年度

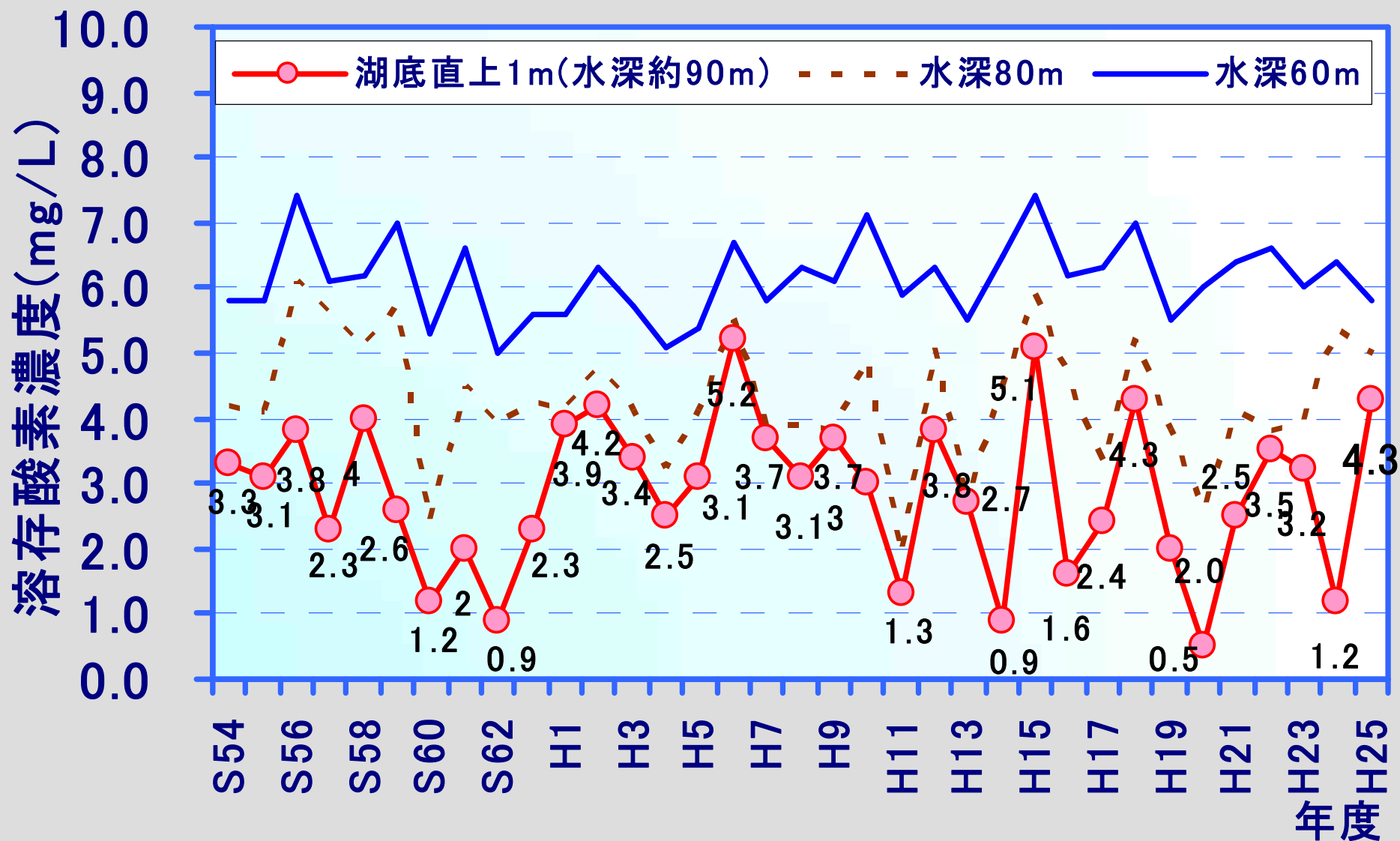


今津沖中央における溶存珪酸の鉛直分布の変化

北湖今津沖中央の湖底直上 1 m における 溶存酸素濃度の経月変化



北湖今津沖中央の湖底から1mにおける 溶存酸素濃度年度最低値の変動



台風18号による水質への影響と北湖 深層部の溶存酸素

台風通過直後、透明度が1m前後まで激減

琵琶湖一面にSS等粒子態成分が増加

1週間後に2m、3週間後(10月定期調査時)には4m程度まで回復

その後、降水量が例年より減少

鉛直分布で見ると、SSの濁り成分はほぼ1か月で沈降

深層部のDOの状況

平年よりやや遅い減少

琵琶湖水質の年平均値に大きな影響は現れず

台風による深水層の攪乱

北湖深層部のDO低下は緩やかで年度最低値は4.3mg/L低酸素化現象は生じなかった。

DOCやDCODが鉛直方向でも低下

平成25年度琵琶湖水質変動の特徴まとめ

1. 北湖CODの大幅な低下

昭和59年度から上昇し、平成10年度以降高止まり傾向であったCODが平成25年度は2.3mg/Lに低下

【主な要因】

植物プランクトンの減少と平成23年度以降の降水量の増加（平成25年度は、特に台風18号による、雨水の流入）が主な要因と考えられる。（クロロフィルaの減少、塩化物イオン減少、溶存態CODの低下）

2. 南湖における全リンの上昇

冬季の1～2月に南湖で特異的に高かった

【主な要因】

南湖水の滞留、珪藻の増殖、風による巻き上げ等が要因として考えられる。

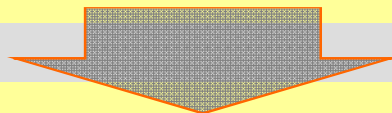
平成25年度琵琶湖水質変動の特徴まとめ

3. 台風18号による影響と北湖深層部の溶存酸素

台風通過直後の透明度が1m前後まで激減したが、3週間後の10月定期調査時には4m程度まで回復→琵琶湖水質の年平均値評価に大きな影響は現れず。

鉛直分布で見ると、SSの濁り成分はほぼ1か月で沈降。その後、塩化物イオンやDOC、DCODが低下。

また、北湖深層部のDO低下は緩やかで年度最低値も4.3mg/Lと、低酸素化現象は生じなかった。



平成25年度も23～24年度に続き、水質が大きく変動した。その要因として台風に伴う豪雨等、気象の影響が考えられた。

今後とも、水質と合わせて気象・水象、プランクトンの状況について、監視していく必要がある。